

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-〇〇〇〇
施設名	さくらんぼ保育園
施設所在地	東京都府中市紅葉丘 1 - 2 8 - 1
法人名	社会福祉法人 紅葉の会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

生まれて初めての水の感触遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

- ・ 0歳児クラスとして初めての体験に対して子どもたちの反応をみる。
- ・ ずり這いから歩行に移行するなど発達の変化によって感じ方の違いを知る。
- ・ 子どもたちの内なる自然を大切に保育していきお座りを促すなど発達段階を飛び越さないよう気を付けている。
- ・ 自然物にふれ五感を使った遊びを大切にしている。

2. 活動スケジュール

- ・ 入園して間もないころは、室内の水道で手洗いなどで水に触れる。また、園庭の水まきなどを見ることで水に関心を持つ。
- ・ 園庭やテラスでホースの水やタライに貯めた水に触れてみる。
少量の溜まった水を手でたたき水しぶきを楽しむ。
心地よさを知る。
- ・ 小さい器や布のおもちゃを使って水と一緒に遊ぶ。
- ・ 噴水のように水が出るおもちゃを使って変化を感じる。
- ・ 自然物（里芋の葉っぱなど）と水を合わせて面白さを知る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

環境設定

- ・生活の中で自然に水を見たり触れたり出来るようにしてきた。水道につかまり立ちをしている時に蛇口から水が出るようにしたり、園庭の水やりを子どもたちの前でいった。
- ・腹ばいで安心して遊べるようテラスでの活動を保障してきた。
- ・お座りが出来るようになって芝生の感触や土の上でも水で遊べるおもちゃを用意した。

準備した道具

- ・水・ホース・タライ・小さな器・布のおもちゃや小さなタオル・木の積み木
- ・噴水が出るおもちゃ・散った花びら・里芋の葉っぱ

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・室内の水道での流水に触れる。
- ・園庭の水やりに興味を持つ。
- ・興味を持って水に触れてみる。
- ・様々な素材を使って水遊びを経験する。
- ・水の変化を楽しみ、大人や友だちと共感していく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・蛇口から出てくる水に手をかざし流水に触れ大人の代弁で「水」であることを知る。
- ・大人が園庭の水まきを知れていると「何だろう」と近づく。歩行ができる子も腹ばいの子も触れてみたくて手を伸ばす。水に触れると声を出して喜ぶ。
- ・気温が上がるにつれて水の心地よさを知っていく。大人が「つめたいね」「気持ちが良いね」と代弁をしてきた。
- ・積極的に遊ぶ友だちの模倣をしようとする姿も見られた。指をさして知らせる。
- ・大きなタライや小さな器に水を入れ入れ替えたりこぼす楽しさを知る。
- ・大人の模倣して腹ばいで遊んでいる子に歩行ができる子が器を使って水を目の前にこぼしたり、器の中に入れ替えたりする姿が見られた。
- ・布のおもちゃを水に入れ持ち上げた時の感触や握った時の感触が楽しくなった。口に入れてしまう姿のあった。
- ・木の積み木を水に浮かせて水流を作って動く様子を見て喜び、模倣してかき混ぜる姿が見られた。このころから投げってしまう子も増えた。
- ・大人の持つホースに興味があるので、ホースをつないで噴水が出るおもちゃを導入した。四方から出る水や自分が押して水の勢いや方向が変わることを発見し夢中になって遊ぶ。
- ・ほとんどの子が自由に移動が出来、お座りも出来るようになり芝生での活動が主になる。芝生が水で濡れて少量の水溜まりなどの感触を楽しむようになった。濡れた葉っぱや花びらが体にくっつくことに不快を感じるようになり、流水で洗ってさっぱりすることに気持ち良さを知った。
- ・大きな里芋の葉っぱの上に水を垂らし水玉になり動く姿に不思議そうにみる。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

0歳児クラスとしてすべての事において初めての経験でした。その中で「水」は遊びだけでなく生活の中で触れることが多く親しむことに難しさはありませんでした。子どもひとりの性格や好奇心の違いもあり個別の対応が主となったことでそれぞれの」発見や行動が良く観察できた。

また、0歳児にとって模倣がとても大事だったので、自らの発見も大事にしながら担当がやってみる姿を見ることも大切に取り組んできた。担当との愛着関係が強くなってきたことで安心できる環境になり「水」に対する関心も強くなってきたので、子どもひとりひとりが安心が出来る空間での保育が「すくわく」に欠かせない事が分かりました。

子どもの主体性を伸ばすことを目標に気持ちに寄り添いながら、好奇心を引き出していきたい。